

令和 2 年 4 月 15 日現在

機関番号：32663

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K16677

研究課題名（和文）創造的観光の概念整理と我が国への適用可能性に関する実証的研究

研究課題名（英文）The concept of creative tourism and its applicability to Japan

研究代表者

佐野 浩祥（Sano, Hiroyoshi）

東洋大学・国際観光学部・教授

研究者番号：50449310

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：我が国の観光立国に資するために、今後、長期的で総合的な地域観光政策の立案と実行が望まれる。近年、地域の内発的発展を志向した創造的観光（クリエイティブ・ツーリズム）という概念が海外で提唱され、様々な先駆的取り組みが展開している一方で、我が国ではほとんど創造的観光について議論されていない。本研究では、創造的観光が我が国の地域観光政策においても重要な位置づけを担い得ると考え、海外で展開している創造的観光の学術的概念を整理し、カナダでの先駆的取り組みを現地調査によって明らかにした上で、金沢市において実証的な研究を実施し、今後の我が国の地域観光政策への提言を取りまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

我が国において全くと言ってよいほど学術的議論の俎上にあがっていない創造的観光について、国内の観光研究者および地方自治体やコンサルタントなどの観光政策に関係する実務者に対して、新しい観光の概念としての創造的観光を紹介したことに加え、海外において議論されている創造的観光をそのまま我が国に適用するのではなく、国内観光地において創造的観光の実証的な検証を通してカスタマイズすることで、我が国に適合した創造的観光の取り組みに向けた提言を行うことで、提言の実現可能性についても配慮した点があげられる。

研究成果の概要（英文）：Toward the contribution to sustainable tourism, it is hoped that a long-term comprehensive regional tourism policy will be formulated and implemented. In recent years, the concept of creative tourism, which is oriented toward the endogenous development, has been advocated overseas, and various pioneering efforts have been made. In this study, we believe that creative tourism can play an important role in regional tourism policy in the future, and we conducted the research. We have conducted the research of terminology organization about academic concept of creative tourism that is being developed overseas and conducted a field survey of pioneering efforts in Canada. After clarifying the above, we carried out empirical research in Kanazawa City and compiled recommendations for Japan's future regional tourism policy.

研究分野：国土・地域計画、観光政策

キーワード：創造都市論 文化観光 カナダ 金沢

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

わが国は本格的な人口減少時代に突入し、特に地方では活力の低下が問題になっている中で、成長産業としての観光に注目が集まっている。しかしながら、人口が減少することは旅行者のマーケット全体も縮小するということである。今後成長が見込まれる訪日外客に対応したビジネスも重要であるが、依然としてわが国の旅行市場を支えているのは日本人による国内市場であることを鑑みれば、観光産業を持続可能な形で地域経済の基盤としていくためには何らかの方策を講じる必要があるだろう。人口減少が避けられない我が国において、国内旅行市場を拡大させるためには2つの方策があり、1つは普段旅行しない層を旅行に連れ出し、旅行参加率を上げることであるが、旅行したくても業務上時間が取れなかったり、そもそも旅行が好きではない人も一定数いると思われ、現実的ではない。もう1つは、普段旅行に参加している層に対し、旅行回数を増やしたり、旅行日数を増やすなどする方策である。これは前者に比べれば実現性が高いため、現在、全国の観光地においてリピーターの確保や滞在時間の増加が求められている所以である。しかしながら、このような必要性は認識されながらも、それを実現できているケースは極めて少ない。何故ならば、基本的に観光は1回限りだからである。未知のものを求めたり、これまで行ったことのない場所を訪れようとする観光は、1回行いさえすれば、ほぼその好奇心を満たすことができる。かように、リピーターの確保や滞在時間の増加は困難な課題である。

本研究では、観光ガイドブックに掲載されている観光スポットをスタンプラリーのように巡るような観光客にとって、観光地は1回限りでそこへ訪れるだけの価値が消費されてしまうことを根源的な問題と捉えた上で、これからの地域観光政策に求められるのは、地域内の潜在力を顕在化させ、不断に魅力が創造されるような観光地づくりである。再訪すると前回とは異なる魅力が創造されているような観光地、あるいは短時間では味わいつくせない深い魅力を持つ観光地を創造していくことが重要であると考え、このような視点で近年提唱されている観光が、本研究のテーマとする創造的観光(クリエイティブ・ツーリズム)である。

2000年にRichards & Raymondによって提唱された創造的観光という概念は、その後2008年に米国サンタフェ市においてユネスコ主催によって開催された創造的観光に関する第1回国際会議によって広く知られるところとなった。その定義は、「創造的観光とは、芸術、遺産、または土地が持つ特質を積極的に学びながら本物の生きた体験をすることを目的とした旅であり、土地に住み、生身の文化を育んでいる人々と交流する機会をもたらす」(Wurzbürger, R., Pattakos, A. and Pratt, S. (2009) Creative Tourism: A global conversation. Santa Fe: Sunstone Press)とされている。この概念は、同じユネスコによる創造都市ネットワーク(Creative Cities Network)と連動している。すなわち、創造都市が「芸術文化が持つ力を活かして社会の潜在力を引き出そうとする都市」(Charles Landry (2000) The Creative City: A toolkit for urban innovators: Earthscan)を目指しているように、固有の文化を活かした創造的な産業を発展させ、文化の多様性を保護することは、創造都市と創造的観光の双方に共通して期待されているのである。近年、海外では創造的観光に関する研究が進んでいるが、わが国ではほとんど学術的議論の俎上にあがっていない。

2. 研究の目的

前述のとおり、新たな観光の概念である創造的観光に関する研究は、我が国ではほとんど見られない。古倉宗治「自転車活用によるまちづくりとしての創造的観光:主体的・健康的・エコの観光と学習の場の提供」(『土地総合研究』21(1), pp.21-36, 2013年)では、主として自転車観光の振興に向けた課題整理と提言がまとめられているが、創造的観光については特段定義もされず、創造的観光に関する国際的な議論にも触れられていない。以上を踏まえ、本研究では以下の課題を設定する。

- (1) 創造的観光の概念整理
- (2) 海外先進地における創造的観光の実態把握
- (3) 我が国における創造的観光の適用可能性の検討
- (4) 我が国における地域観光政策への提言

(1)2000年以降、創造的観光に関する研究が様々な国と地域で展開している現状を踏まえ、第一段階ではそのような先行研究を網羅的に渉猟し、それぞれ創造的観光の定義や対象などについて比較分析を進めることで創造的観光の概念整理を試みる。(2)第二段階では、先行研究をもとに実際に創造的観光への取り組みが展開されている海外の先進的な事例を選定し、関係者ヒアリングなどの現地調査および資料調査を通して、創造的観光の実態を把握する。(3)第三段階では、国内観光地において創造的観光の取り組みを実験的に導入し、その効果を精査することで、我が国における創造的観光の適用可能性を検討する。(4)第四段階では、第三段階での検討を踏まえて、我が国における地域観光政策への提言資料をとりまとめ、適切な方法で発信する。

3. 研究の方法

平成28年度は海外の先行研究レビューや研究者ヒアリング等によって創造的観光の概念整理を行うとともに、実際に海外で創造的観光の推進に向けて先駆的取り組みを行っている地域において現地調査を実施する。平成29年度以降は、前年度の調査を踏まえ、NPO法人金沢クリエイティブツーリズム推進機構の協力を得て、国内観光地(石川県金沢市)において創造的観光

のモニターツアーを実施し、満足度に関するアンケート調査を実施・分析するなどして、我が国への適用可能性を検討した上で、今後の地域観光政策への提言をとりまとめ、国内外の学会や地方自治体等に向けて研究成果を発信する。

4. 研究成果

文献調査を中心として、創造的観光という概念の起源とその展開を明らかにした。主として国外における創造的観光に関する学術書や研究論文を渉猟した結果、創造的観光の概念は、マスツーリズムの弊害を乗り越えるために登場したカルチュラルツーリズムもまたその大衆化によってマスツーリズム同様の弊害を引き起こしつつある中で、2000年前後にカルチュラルツーリズムのオルタナティブとして登場したことがわかった。

次に、創造的観光の海外事例調査を実施した。海外における創造的観光の先進事例として位置付けられ、カナダ・ソルトスプリング島において25年に渡って継続的に実施されているスタジオツアーについて、当該運営団体や地元商工会議所ならびに参加アーティストに対してインタビュー調査を実施した。事前にインタビュー項目を送付した上で現地においてその回答を聴取する半構造化インタビュー調査を実施し、スタジオツアーの運営手法や参加アーティストにとっての意義を明らかにした。25年間継続的に実施できてきた主因として考えられるのは、その運営手法が極めてシンプルな点である。行政や中間支援団体等の第三者は後景化し、ここではホスト（アーティスト）とゲスト（観光客）が直接結びつくような関係性が実現されていた。アーティスト側の副収入獲得や知名度向上といった共通の目的のもとに弱い紐帯が生まれ、組織化され、スタジオツアーを運営している。スタジオツアーへの参加に効果を見出せないアーティストは抜けていくし、観光客も自身の興味関心にしたがって好みのスタジオを選択して訪問するなどして、スタジオツアーに参加するアーティストや観光客は毎年少しずつ変化している。両者の自由意志が尊重され、組合のような相互扶助的な関係性はほとんど見られなかった。

創造的観光の概念整理及び海外事例調査をベースとして、国内観光地におけるモニターツアー調査を実施した。まず、金沢在住のアーティストに対して基本的プロフィールとツアーへの協力意向についてアンケート調査を実施し、アーティストにとってのツアーの意義やツアーの実現可能性について考察した。その上で、数人のアーティストの協力を得て、モニターツアーを実施した。アーティストの選定にあたっては、江戸期から代々続く伝統的な技法を受け継ぐ職人から現代アートのアーティストまで、幅広いジャンルを扱うように配慮した。モニターには、外資系高級ホテルのコンシェルジュ、通訳案内士派遣企業の経営者、着地型旅行事業者など全国から4名を招聘し、ツアー後にインタビュー調査を実施した。ツアーの内容としては、4名全員から肯定的な評価を得た。特に、超富裕層をマーケットとしているコンシェルジュからも十分に魅力的であるとの評価を得た一方で、その魅力の発信が課題であるという指摘を受けた。その後、モニターツアーの対象者を一般観光客に広げて、NPO法人金沢クリエイティブツーリズム推進機構の全面的な協力のもと、調査を実施した。ツアー参加者には、はじめて金沢を訪れた観光客は少なく、5回目以上といったヘビーリピーターが比較的多いことが特徴であった。ツアー後のアンケート調査では、その満足度は大変高いことがわかり、創造的観光は、リピーター確保のための有力な手段であることが実証された。以上の調査結果は、国内外の学会で報告済である。

他方で、創造的観光を推進するための組織運営に課題が見出された。わが国において創造的観光を推進するために、マーケットに訴求するための広報を実施し、ツアー参加希望者からのコンタクトを受け、ツアー受入側に受け入れを打診・調整するなどの中間組織の重要性はさることながら、その中間組織をいかに持続可能な形で運営していくのかについて、スタッフの専門性や収支バランス等の検討の必要性が見出された。このような課題は、現在、全国の観光地に設置されつつあるDMOを巡る課題と重なるところがあり、創造的観光を推進するための組織としてDMOは有力な候補であることが推察される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Kota Maruya, Kei Sakamura, Hiroyoshi Sano	4. 巻 -
2. 論文標題 Practical Research on Creative Tourism in Kanazawa City, Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of APTA 2018 Conference	6. 最初と最後の頁 719-725
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐野 浩祥 , 水野 雅男 , 坂本 英之 , 足袋 拔 豪	4. 巻 31
2. 論文標題 カナダ・ソルトスプリング島におけるスタジオツアーに関する研究	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本観光研究学会全国大会学術論文集	6. 最初と最後の頁 73-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyoshi Sano	4. 巻 1(2)
2. 論文標題 Theoretical consideration on creative tourism	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Global Tourism Research	6. 最初と最後の頁 127-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 佐野浩祥
2. 発表標題 カナダ・ソルトスプリング島におけるスタジオツアーに関する研究
3. 学会等名 第31回日本観光研究学会全国大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----